

リニューアルオープン

吉備路もてなしの館

4月1日、新たな指定管理者の指定にともない、吉備路もてなしの館がリニューアルオープンしました。

指定管理者として指定されたのは総社吉備路商工会です。「吉備路観光のオアシスとなるようがんばってきたい」。同商工会は、この日行われた記念式典のあいさつで、今後の運営の方針をこのように表現しました。また、新鮮な野菜をはじめとした地域の特産品を、数多く店頭に並べることも取り組むそうです。

式典の後、福山合戦太鼓の演奏が行われ、新しい門出を祝いました。



かわいい子どもたちの太鼓がリニューアルオープンを祝った

みんな覚えてね

市民憲章の歌

3月18日、神が辻日曜ふれあい市が市役所駐車場で開かれ、「市民憲章の歌」が、総社少年少女合唱団によってお披露目されました。

この歌は、市民憲章の本文に金池兼広さん（真壁）が曲を付けたもの。総社少年少女合唱団の美しいコーラスに、朝市の買い物客がしばし足を止めて聞き入っていました。

また、市民憲章の暗記コンテストも行われ、参加した子どもたちは全員、見事に読み上げました。



市民憲章の歌を歌う総社少年少女合唱団

ミニフォト

にぎやかに春の一日を過ごす



華麗に一輪車を乗りこなす

3月25日、昭和親子ふれあいプラザで日美分館まつりが開かれました。まつりは、老若男女が楽しめる盛りだくさんの内容。一輪車ショーでは、小学生12人による見事な演技に、訪れた人は盛んな拍手を送っていました。

短期大学部は最後の卒業生



岡山県立大学同短期大学部の卒業式が3月22日、岡山県立大学で行われました。学業や課外活動など思い出多きキャンパスを529人が後にしました。また、3月31日で閉学となった短期大学部は、これが最後の卒業式でした。

カヌーを楽しんでね



復旧したカヌーデッキ

昨年7月の豪雨で流出したそうじや水辺の楽校のカヌーデッキが、3月末までに復旧しました。このデッキは従来のものより一回り大きく、コンクリート製です。カヌーの乗り降りの場や憩いの場として、皆さんご利用ください。

輝いている人

青年の船に乗ったことで、国際貢献という目標ができた



今年1月25日から3月8日までの43日間、内閣府が行った世界青年の船に乗船したのが斎藤佑亮さん（20歳）だ。

世界青年の船とは、客船「につば丸」に日本と海外の青年が乗り込み、航海中の船内でのディスカッションや共同生活を通じて、国際社会で幅広く貢献できる青年を育成する事業だ。

この船には、だれでも乗れるわけではない。「いろいろな国の人と共同生活するなかで何かを得たい」。半信半疑での応募だったが、英語による面接や作文、筆記試験などを経て、昨年の6月に乗船が決まった。

「公用語は英語で、最初は緊張もしていたし、つらかった」。英語といってもなまりが強い人も多く、会話に苦労することもしばしばだったという。そんななか、自分の気持ちをコントロールするために持っていたサックスをみんなの前で吹いた。これが転機となり仲間と一気に

打ち解けていった。声も掛けてもらえるようになり、船内での存在感が大きくなるのが自分でも分かったという。

外国人と共同生活するなか、お互いの文化を尊重しあえるまでになった斎藤さん。国際的な視野が身に付き、人間的な成長を遂げられたうれしさと自信が、インタビューの間、はつきりと伝わってきた。そして、「船に乗ったことで、間違いなく自分の目指すところは変わったし、国際貢献という目標もできた」と言う。「夢のような43日間」と表現した旅の最後に見せた涙は、自分を成長させてくれた仲間への感謝の気持ちだったのだろう。「自分を変えてくれたこの船を、多くの人に知ってもらいたい」。今後、この事業のPRや日本のリーダーとしての乗船に意欲満々の斎藤さん。将来はジャイカといった国際機関で働きたいと目を輝かせる。

斎藤 佑亮さん（井手）